戦争を学んで

北中学校三年　岸田　芽生

一九四五年八月六日、アメリカが広島に原子爆弾を落とした。戦争や原爆のことは授業で習っていたので知っているつもりでした。ですが、学校では歴史の授業として必要なことしか学んでいなかったと思いました。

今回の体験で一番心に残ったことは、私たちと同じような年齢で戦争を体験した方の講話です。周りには山積みになったたくさんの死体。家も家族も、何もかもが消え、心臓は動いていても心が動かなくなっている人。そんな話を聞き、頭の中で映像となりました。ですが、あまりにも悲惨で今の日本では想像できず、思わずフィクションなのではないかと思ってしまうような話ばかりでした。しかしこの話は事実です。もし、これが自分の話だったら。

戦争の歴史で知るべきことは戦争が起こった日にちや、原因ではなく戦争の悲惨さや、

20 × 20

戦争を体験した人の気持ちだと思いました。

戦争は「怖い、悲しい、酷い」こんな言葉では言い表せません。それは戦争を体験した人しかわからないのかもしれません。ですが、それを「感じる、知ろうとする」ということが大切だと思います。

今回、広島平和体験学習という貴重な体験をさせていただき、とても感謝しています。今度は私が戦争のことを伝えていけたらと思います。そして戦争で亡くなった方のご冥福と、今の平和な日本に感謝し、平和な世界になることをお祈りします。

20 × 20